**「(仮称)白岡町自治基本条例(白岡町まちづくり条例)をつくる会」
第20回全体会議・ワークショップの議事録(H22.7.24)**

【1 全体会議】

事務局 これから第20回白岡町自治基本条例をつくる会を始めます。それでは、開催にあたりまして内山会長から挨拶を頂きます。

内山会長 大変暑い日が続いています。過去にも長く猛暑日が続いたことがあります。農家の方も大変ですが、稲の発育も良く、豊作が期待できます。さて、本日は、20回目という1つの区切りになります。本日も、みなさんの積極的なご議論をよろしくお願いいたします。

事務局 続きまして、高澤秘書広聴課長より挨拶を申し上げます。

高澤課長 昨年、8月にこの会を発足し、本日で20回を迎えることになりました。作業部会も11回になりました。今まで同様に活発なご議論をよろしくお願いいたします。

事務局 それでは議事に入ります。進行については、内山会長にお願いします。

内山会長 暫時、議長職を務めさせていただきます。本日の全体会議の進め方について事務局から説明があります。

事務局 資料の確認をします。本日は全体会議とワークショップを行います。全体会議では、配布した資料の「第11回作業部会の記録シート」をご覧ください。そこには、大項目「地域自治・コミュニティ」、「情報公開・情報共有」、「住民投票」が書かれています。大項目「地域自治・コミュニティ」については、確認する作業になります。大項目「情報公開・情報共有」、「住民投票」については、本日の全体会議で検討し、確認します。大項目「情報公開・情報共有」の内容について、「7/13第11回作業部会の案」の、 と考え方の一部がゴシック体で書かれています。これは、前回の全体会議で、再度作業部会で議論することになった部分です。それについて、作業部会で改めて提案を示し、全体会議で検討していただきます。大項目「住民投票」についても、内容の と考え方にゴシック体が入っています。これらも、同様に全体会議で検討していただきます。ワークショップについては、大項目「まちづくり」の中項目、それ自体を集約するかどうかを含めて議論します。その後グループごとに発表していただきます。そして、共通認識を持つために、全体で確認します。

内山会長 ここまでについて、何か質問や意見はありますか。ないようなので、議事に入ります。

まず、「第11回作業部会の記録シート」の大項目「地域自治・コミュニティ」の中項目「地域活動と地域自治組織」について確認します。ここでは、中項目に「地域」という言葉が入って、「自治組織」から、「地域自治組織」になっています。また、内容のにも同様に「地域」が入り、「地域自治組織」になっています。内容 は、「町は、協働のパートナーとして地域自治組織の役割を重視し、その活動を支援するとともに、まちづくりへの参画に努めるものとします。」のように、変わっています。ここについて、確認をしてください。趣旨は、「地域」という言葉が入っていること以外は、変更がありません。考え方は、 に「地域」という言葉が入っています。また、 の3行目は「 で掲げた地域活動を行っている団体のうち、」のように変わっています。 は、「地域」という言葉が入っています。確認をよろしくお願いいたします。大項目「情報公開・情報共有」の中項目「公開と提供・共有の原則」の議論に移ります。内容 は、「地域自治組織は、活動への参加促進と組織運営の透明性を確保するため、活動に関する情報の積極的な提供に努めるものとします。」に変わりました。内容 は、「前2項の情報の公開・提供に当たっては、町と地域自治組織は、保有する個人情報と適正に取り扱い、個人の権利利益を保護するものとします。」に変わりました。趣旨には、「自治組織」に「地

域」という言葉を付け加え、「地域自治組織」にしています。

考え方は、『情報の公開』については、すでに行っています。『情報の提供・共有』は、積極的に情報を発信し、共有することでまちづくりにつなげようという意味で使用しています。町は、白岡町情報公開条例に基づき情報を公開しておりますが、『町民の権利』の中項目にある知る権利を保障するためにも、町民が知りたい情報について、広報紙その他で積極的に提供していくことが必要です。まちづくりには、町民・議会・行政の三者が協働することが不可欠ですので、町はまちづくりに関する情報を提供し、町民と共有することで、町政運営に関心をもってもらうことが必要です。町政に関心が向けば、具体的なまちづくりの活動、行動につながっていくと考えるからです。地域で行う自治活動、自治会、NPO等の活動の中で、共有する情報を整理して、町民同士が情報を共有することが、地域の自治を進める上で重要です。また、情報を共有することで組織運営の透明性も図れます。知りたい情報は、町にだけあるのではなく、地域にもあるので、それを積極的に発信し、その情報を町民も共有していこうという想いがあります。なお、ここで提供し、共有していこうとしている情報は、地域自治組織の活動状況などです。提供する情報は各組織の裁量によって個別に判断するものです。町も地域自治組織も、現に情報を提供していると思いますが、一方通行の情報提供だけでなく、さらに町と町民や町民同士、また地域自治組織同士という双方向の情報提供ができれば、これをきっかけにして、コミュニティが活性化し、広がると思います。そこで、町は、広報しらおかやホームページをさらに充実させ、発せられた情報を双方向で議論できるようなしくみを検討する必要があります。町も地域自治組織も、個人の権利や利益を保護する観点から、情報の公開や提供に当たっては、個人情報保護に関する法律や白岡町個人情報保護条例に基づき、個人情報の取扱いに十分注意し、保護するものとします。なお、個人情報の保護については、大項目『行政』や『V 議会』等の中項目に個別に書くのではなく、ここに集約しました。」となりました。

ここまでに、意見はありますか。無いようなので、大項目「住民投票」の議論に移ります。内容について修正した点は、の「町民」を「住民」に変更しました。考え方は、「町民自らが町政の重要事項を判断し、町の将来の方向性を決めることに関わることは、住民自治の実現のため、重要な事です。また、住民自らが町政へ参加することになる住民投票は、自治に対する意識を高める手段として必要だと考えます。一方、行政にとっても、住民投票を経て町政運営を行うことを規定することで、良い意味での緊張感が生まれ、結果として町政の執行に信頼関係を保ち、安定的な町政運営につながります。」となっています。そして、「第11回作業部会の記録シート」の最後のページの、上から5行目に「重大な」という言葉を加えています。住民投票では、重要な事項が取り上げられるべきということを表現しています。

また、「町長自らが住民投票を発議し、積極的に住民の声を聴こうとすることは、町政運営には重要なことですので、あえて明記しています。この条例で定義した『町民』の中には、白岡町内には住所を有しない人も含んでいますが、投票できる人を特定することが難しいため、ここでは『白岡町に住所を有する住民』に限定しています。住民投票を適正に執行するために、一定要件を課すものとして、地方自治法では、議会の解散、議員や長の解職請求に、選挙権を有する者の3分の1という規定がありますので、住民投票も同じ程度の重要性を持つと考え、これに準じて『3分の1以上』としました。年齢要件については、未来の白岡町を担う世代の意見を聴くことは重要ですし、満18歳以上の者であれば、国民投票ができる年齢になっておりますので、十分な判断力があると考え、住民投票ができることとしました。議員は住民によって、選挙で選ばれております。その集合体である議会が議決(過半数以上)して発議することは、重要な課題であると言えます。」のように変わっています。以下は変更がありません。ここまで、意見や質問はありますか。

日下委員 「地域自治」と「住民自治」という言葉の両方が出ています。その2つの言葉は、どのような関係になる

のでしょうか。

牛山教授 「住民自治」は、町の行末を地域の住民が自分たちで決定することや行政運営をコントロールするようなことを意味していると理解しています。広い意味で住民が自治の担い手であるという意味です。それに対して、「地域自治」は、行政区や自治会などの、町の中にある行政エリアの自治を尊重するという意味です。エリアの問題と、担い手の問題という区別の仕方の良いと思います。

日下委員 「住民自治」の方が上位概念でしょうか。

牛山教授 「住民自治」は自治の担い手についての考えです。「地域自治」はエリアごとに自治があるという考えです。どちらかが上位概念であると断定することは難しいです。「住民自治」は憲法の地方自治の本旨に書かれていて、上位概念のような感じがしますが、あまり明確ではないと思います。

内山会長 他に意見はありますか。

吉野委員 大項目「住民投票」の内容の「町民」が「住民」に変わったことは、どのような理由からですか。

高澤課長 「町民」の方が広い意味であり、「町民」という文言を用いても間違いではありません。しかし、住民投票で投票できる資格は、「住所を有する者」です。具体的に、投票した人が、納得するかしないかに関わらず、結果を尊重するという意味から「住民」にしました。

吉野委員 投票する権利のある人が、特に結果を尊重するべきだということですか。

高澤課長 結果に納得するかしないかに関わらず、尊重するということです。

牛山教授 この点は、他の自治体でも議論になるところです。本来、住民投票の結果を尊重するのは、議会と行政です。住民投票の結果を受けて意思決定をしますが、意思決定をするのは、議会と行政です。住民投票の後では、住民は意思決定に間接的にしか参加できないので、議会と行政だけに尊重義務を課すこととなります。よって、「住民」と書いても良いですが、あまり意味がありません。むしろ、「町民」と書いた方が、意味があります。住民が投票して決めたことに、町民が従うという意味が出てきます。

高澤課長 非常に難しい議論だと思います。住民が投票して、住民が尊重するという意味で、「住民」と書きました。仮に、「町民」と書くならば、どこかに説明を書かないと理解していただけないのではないかと不安があります。

牛山教授 もう1点、気になる点があります。今の規定のままでは、住民投票の結果、少数派になった人に対しても、結果に従いなさいという言い方になります。実際、住民投票で少数派になっても、その方々が、引き続き、それに反対する運動をすることもあります。

平田委員 町民は、他の自治体から働きに来たり、学びに来たりしている人も含みます。住民投票で決まったことを尊重することは、町民の方々にも尊重していただきたいです。「町民」にした方が良いと思います。

内山会長 他に意見はありますか。

牛山教授 投票者と遵守者を合わせるという意見も分かります。そのようなことを突き詰めて考えると、「住民」を削除した方が制度的、法的にもきれいに収まります。「住民」を入れたいということであれば、住民投票による住民の政治的意思決定については、町民のみなさんにも従ってほしいという文にした方が説明しやすいです。

内山会長 他に意見はありますか。

古嶋委員 私は、住民ではありませんが、町民としてここに来ています。そのようなことから、「町民」と書いてほしいです。

内山会長 実際に文をどのように変更することになりますか。

高澤課長 町民が結果を尊重するというだけであり、住民投票そのものができるということではないので、考

え方の を直すこととなります。

牛山教授 考え方の を「住民投票の結果については、住民の多くの意思が反映しているものです。このため、結果については、住民のみならず、町民全体で尊重しなければなりません。」のように変えるのはいかがでしょうか。

内山会長 考え方 の修正案を牛山教授から提示していただきました。今の提案のように表現を変更することでよろしいですか。異論が無いようなので、合意とします。他の部分について意見はありますか。

平田委員 年齢要件について、16歳という意見も出ました。16歳ではいけない理由も記録シートに載せた方がよいと思います。

内山会長 それは考え方の に書かれています。「年齢要件については、未来の白岡町を担う世代の意見を聴くことは重要ですし、満18歳以上の者であれば、国民投票ができる年齢になっておりますので、十分な判断力があると考え、住民投票ができることとしました。」と書かれています。これが理由になっています。

平田委員 これは、20歳ではなく、18歳にする時の理由だと思います。つまり、18歳にも判断ができるという理由です。16歳にはできないという理由はありますか。

高澤課長 この考え方については、内容の説明や理由になっているので、18歳にした理由を書くこととなります。検討経過として、年齢の案が16歳、18歳、20歳があったことは、内容の「7/4第19回つくる会全体会議」での委員の意見に書かれています。16歳も検討したということが書かれています。幅広い16歳についても検討したということが分かると思います。

平田委員 18歳、20歳は白岡町外に出て行きます。16歳は、町内にいる時間が長いので、16歳を提案したということがどこかに残っていれば良いです。

内山会長 今のご質問に対して、高澤課長の説明でよろしいですか。

平田委員 意見として残してください。

内山会長 他に意見はありますか。では、これで全体会議を終わります。

【2 ワークショップ】

内山会長 ワークショップに入ります。事務局からワークショップの進め方について説明があります。

事務局 本日は、大項目「まちづくり」を議論していただきます。プログラムの裏に書いている、ワークショップの進め方をご覧ください。大項目「まちづくり」は7つの中項目があります。これについて、前回牛山教授から考え方について説明がありました。この中項目を集約することも含めて考えて下さい。大項目「まちづくり」の中項目の具体的な中身について話し合ってください。特に「なぜ(考え方)」にあたる部分を話し合ってください。なぜ、中項目を集約したかも考えて、記録してください。最後には、記録シートにまとめて、発表してください。時間は、15時30分までとします。

内山会長 では、ワークショップを始めて下さい。

* * * * *

事務局 (グループから発表をお願いします。

嶋津委員 (グループは中項目の言葉の定義を考えました。それを考えていくと、それぞれが関連していると分かり、「タウンミーティング」だけ関連性がないということが分かりました。また、「まちづくり」の中項目は全部、他

の項目で謳っていることに含まれていると理解することが良いと思いました。しかし、危機管理については今までの項目に出ていないことが問題だと思いました。

事務局 Bグループの発表をお願いします。

広辺委員 Bグループの発表をします。まちづくりの中項目「計画」、「タウンミーティング」を1つにまとめ、「環境」、「福祉」、「安心安全」を1つにまとめました。その次に、「環境」、「ボランティア」は必要ないという結論になりました。その理由は、「ボランティア」は住民協働があるので、大項目「まちづくり」に入れる必要がないからです。ここに入ると、タダ働きを強要するようで、適当ではないと思いました。計画をするのであれば、町がしっかりと計画をし、その時に、住民参加を行うということが大項目「住民協働」、「行政」に書かれています。その計画などにおいて、町民の話を聞く機会を持つための「タウンミーティング」と考えて、「計画」と「タウンミーティング」を1つにしました。「福祉」、「安心安全」、「環境」の議論では、具体的な中身を考えて、町民やその役割を書く項目であるという話になりました。行政は、公共施設や行政の運営など、町について管理します。しかし、行政だけではできないところを町民が補完するということです。そこで、「福祉」、「安心安全」などで、そのことを書いていきます。ネーミングについては、グループの中で適当な意見が出なかったので、みなさんに考えていただきたいです。町は町の役割をしっかりと果たし、町民は足りないところを手伝います。その町民の自発的な活動に対して、町が手を貸すという相互補完するようなタウンミーティングと町民の役割があります。そして、そのことを中項目にするのであれば、2つになり、中項目を作らないのであれば、「まちづくり」という項目は、行政の役割と町民による補完、町民の活動、行政による補完などの相互補完をする項目であるという話でまとまりました。しかし、「まちづくり」という言葉を活かす方向で考えたときの話なので、Cグループとは、異なっているかもしれません。

藤巻委員 補足します。今の発表は抽象的な話です。具体的には、行政は町の公共施設の美観の維持管理に努める必要があり、そのような一文を入れた方が良いと思います。

事務局 Aグループの発表をお願いします。

平田委員 Aグループの発表をします。前提として、この大項目「まちづくり」は、どこの項目にも入らないことを入れている項目であることを確認しました。残すとすれば、「タウンミーティング」と「計画」です。あとは、残りの中項目をまとめて書くか書かないかという問題があります。しかし、他の項目に含まれているのではないかという結論になりました。そこで、「タウンミーティング」は大項目「情報公開・情報共有」に関わってくるので、ここからは除きました。「計画」については、大項目「住民協働」で、住民参画として述べられています。それで十分だという話になりました。「安心安全」は、前文に書くようなものなので、そこで書くという結論になりました。「ボランティア」は、大項目「地域自治・コミュニティ」の「NPO等」という文言の「等」に入るということでまとまりました。「産業」、「福祉」、「環境」は、他のところや、様々な法律で書かれています。ここでは、あえて「まちづくり」という項目をつくって、書く必要は無いということで、全項目を外しても良いという結論になりました。

事務局 3グループの意見が出ました。Cグループから、行政の責務に含まれるという意見が出たので、過去の項目を確認しますか。

藤巻委員 Cグループの意見に対して、意見を出せば良いと思います。

牛山教授 3グループの意見の共通項があれば集約するべきです。

日下委員 「タウンミーティング」の位置づけがグループによって違います。そこは議論すべきです。他の項目は、前文や理念に入れるようなものも、既に入っているものもあると思います。そのようなことから、「まちづくり」という項目を無理に作る必要もないように思います。

牛山教授 みなさんのタウンミーティングについてのイメージが共有されているでしょうか。タウンミーティングを

行政の広聴や広報のように位置付けている意見と、市民参加の仕組みとして位置付けている意見があります。アメリカでは、議会や首長とは別に、タウンミーティングを直接参加の場としているところがあります。タウンミーティングを議会と並べて書くことは、タウンミーティングの持つ意味が非常に強くなります。よって、タウンミーティングをどのように位置づけるかが問題になります。タウンミーティングは、制度化、直接参加の場、広報・広聴の場ということで、3段階の位置づけが考えられます。

内山会長 みなさんはどのように思われますか。

藤巻委員 3段階の位置づけについては、共通認識が出来ていないと思います。

牛山教授 私がみなさんのお話を伺った中では、直接参加の場とするか、大項目「行政」に含まれていると考えるかのどちらかだと思います。

藤巻委員 どこかのグループがタウンミーティングの素案を出して、それをたたき台にして、みんなで議論すれば良いと思います。

牛山教授 今出ている意見だけで作業部会が議論することは難しいので、この場である程度議論し、まとめた方が良いということでしょうか。

藤巻委員 今出ている意見だけで、作業部会が成文化することは難しいと思います。

日下委員 Cグループは、タウンミーティングを比較的軽い、意見交換会だと考えています。町民は町の情報を聞き、町は町民の意見を参考に聞く場として考えました。意見が出たとしても、必ず取り上げるという事ではありません。

内山会長 みなさんはどのように思われますか。

広辺委員 私は、タウンミーティングは、大項目「住民協働」の中項目「住民参画」に含まれると思います。パブリックコメントなどのように、段階の1つとしてタウンミーティングがあるべきです。

高澤課長 住民参画では、パブリックコメントだけを意識しているのではなく、意見を求める1つの方法として考えています。

広辺委員 この「まちづくり」の項目を無くすのであれば、意見を求める1つの方法の中に、タウンミーティングもあると考えるべきです。お互いが相互補完するのであれば、そのような扱いが適当だと思います。

牛山教授 タウンミーティングがどのようなものかの定義がありません。行政が説明会をして、意見を聞くようなものをタウンミーティングと言うのであれば、「住民参画」や行政の広聴・広報に含まれるので、中項目「タウンミーティング」を削除することになります。新しくタウンミーティングという制度をつくり、規定するのであれば、さらなる議論が必要です。しかし、みなさんの意見を聞くと、タウンミーティングを制度化したいということではなく、行政が施策を行うときに意見を聞いてほしいということを考えているという印象を持ちます。

野口委員 私は、どこかに「農業の重要性を鑑み」という言葉を入れた一文を書いてほしいと思っています。現在、田の4割が休んでいて、遊休農地が増えています。農業の後継者はほとんどいません。農業の斜陽化が起きています。「農業の重要性を鑑み」という項目を残してほしいです。

嶋津委員 その場合、どこに入れるのでしょうか。

野口委員 それは、分かりませんが、どこかに入れてほしいです。

内山会長 タウンミーティングを過去に議論した項目に含まれていると考えるのか、前文などで表現するのかなどが考えられます。過去の項目に含まれるとするならば、過去の文を変更することも考えられます。そのようなことも考えながら、タウンミーティングを反映させることになります。

藤巻委員 Cグループの意見をたたき台にして、作業部会で成文化してはいかがでしょうか。

内山会長 項目の「まちづくり」ということも、どこかで含まれているという意見も出ています。Cグループは項目を

残したいという考えです。しかし、項目を無くすということで合意したとしても、言葉として残しておきたいという想いや前文に書きたいという気持ちもあると思います。そのような観点から作業部会で議論しますが、それでよろしいでしょうか。

藤巻委員 もう少し議論した方が良くと思います。タウンミーティングについての意見しか出ていないので、他の項目についての意見も聞くべきだと思います。

内山会長 では、もう少し具体的な議論をします。大項目「まちづくり」という項目自体をどのようにするかという議論や中項目の7つの項目をどのようにするか具体的な議論をしたいと思います。

藤巻委員 中項目の7つについて議論するべきだと思います。削除するという意見なども共有するべきです。

内山会長 では、そのような観点から議論します。最初に「タウンミーティング」について議論します。ここは、牛山教授のお話よりも、軽いレベルで理解していました。そのような理解でよろしいですか。

藤巻委員 そのように考えるのであれば、中項目「タウンミーティング」を削除するということでしょうか。

内山会長 そのようになります。

広辺委員 本日は来ていませんが、タウンミーティングについて、遠藤委員のメモを読み上げます。盛り込みたい内容として、「町は地方公共団体として自治を実現するためタウンミーティングを開催しなければならなりません。タウンミーティングについて、必要な事項は、別に条例に定めます。」と書かれています。理由は、「『タウン』という言葉が象徴するように、白岡町は農村からの脱皮が必要です。農業がどのようになっても良いという意味ではありません。タウンミーティングがこれからのまちづくりに欠かせないものであり、盛り上げる方向の検討は必要です。参加者は記録を正確に残し、市民としての義務を果たし、ポイント制などの工夫が必要になります。」と書かれています。議論の経過については、「住民投票同様、他の条例に委ねる部分を少なくし、ここに定める方が良いでしょう。1年の開催義務回数を書いてはいかがでしょうか。」と書かれています。遠藤委員は、タウンミーティングを制度化することを考えていると思います。本人が欠席しているのに、書いていたメモを読み上げました。

内山会長 遠藤委員は、タウンミーティングの制度化をしたいという気持ちですね。私も同じような考えがありました。しかし、他の町民から聞く機会を設けるという意味で、タウンミーティングを考えても良いと思います。

牛山教授 自治基本条例に書くのであれば、議会が議決をする前に、タウンミーティングを行うという制度になり、みなさんが思っているよりも大きな話になります。参加や協働のプロセスの1つに、タウンミーティングのような意見を聞く機会があれば良いと考えるのであれば、まず自治基本条例に「参加・協働を進める」ということを書きます。そして、別の条例に書くことにし、そこで検討してもらうことになります。よって、解説などで「参加や協働において、タウンミーティングなどの様々な方法が考えられます。このようなことは、他の条例で具体的な検討をすることが望まれます」ということを書いてはいかがでしょうか。しかし、議会の前に、タウンミーティングを必ず行うという意見もあるかもしれません。

日下委員 タウンミーティングと同じような、公聴会や意見交換会などがあります。そのようなものを整理した上で、タウンミーティングの位置づけや定義を考えるべきです。タウンミーティングについての共通認識ができていないと、結論が出ないと思います。今ある、公聴会や意見交換会とタウンミーティングの関連や、どのような位置づけになるかを具体的に考えなければいけません。

牛山教授 タウンミーティングについて具体的に考えるかどうかを含めての議論です。みなさんの意見を聞くと、そのようなことをする必要がないと感じます。「参加・協働を進め、住民の意見を聞く」ということを自治基本条例に書き、タウンミーティングについての具体的な検討は、参加条例などの別の条例に委ねることが、みなさんの意見だと思います。

広辺委員 選択肢の中の1つとして、検討していただければありがたいという意見です。

牛山教授 今の意見を書いておけば良いのではないのでしょうか。ここで具体的な中身を議論すると、多くのことを検討しなければなりません。ここでは、「次の条例で、具体的な検討を含めて議論してほしい」ということを書きます。ただし、「住民の意見を広く聞くシステムは必要である」ということを自治基本条例に書いておくのはいかがでしょうか。

日下委員 別の条例で定めるということになると、その条例における議論が大変です。タウンミーティングに相当する、公聴会や意見交換会などがどのような状況か、課題は何か、改善策は何かなどを考えるべきです。そのように考えると、タウンミーティングの位置づけが見えてくると思います。今どのようなシステムになっているのかわからない状況で議論をしても良いのでしょうか。私は、公聴会などよりも軽いものとして入れるべきだと思っています。そのようなことを考えて、必要であるという結論になれば、自治基本条例に入れるべきです。

高澤課長 タウンミーティングと同じ様なものとして、公聴会や町長の対話集会もあります。また、地域懇談会という制度もあります。重要計画や重要条例について、地域別に懇談会を行い、地域住民の声を聞きます。これは、制度として既にあります。この自治基本条例の素案づくりでも、素案ができあがった段階で、地域別に説明をし、住民の声を聞きます。現状、町としても、同じ様なことをしています。私の考えでは、牛山教授のように、広聴や住民参加の一環として考えるほうが良いと思います。パブリックコメントのようなものとして、一文入れるということで良いと思います。

日下委員 既にある、タウンミーティングに近い会を、「タウンミーティング」という名前に置き換えることも考えられると思います。

高澤課長 団体の方から、政策などについて意見をいただくようなことだと思います。それは既に行っています。それだけを出させて書くのであれば、一文書いて、別の条例に委ねるということで良いと思います。

内山会長 今日の資料のワークショップについての説明では、タウンミーティングとは、「地域で行われる集会のことで、町が町民の意見を聞く場となります。」と書いています。そのことを考えると、過去の項目で言っていることと同じだと思います。表現の仕方が「タウンミーティング」という言葉になっているだけで、言いたいことは同じだと思います。今、「タウンミーティング」という言葉で議論を進めています。しかし、同じことを意味しているという観点から、この項目を除いてはいかがでしょうか。

牛山教授 本来のタウンミーティングは、遠藤委員が考えているものに近行政が説明をし、住民の意見を聞く場ではありません。住民が集まって、意思決定をする場です。よって、タウンミーティングはみなさんが考えているよりも重いものです。しかし、みなさんは、そのように考えていませんので、みなさんの意見を参考にして、別の条例で考えるという結論になるかと思います。つまり、タウンミーティングの認識について、意思一致をしないということです。ただし、委ねた条例における議論は、みなさんの意見を参考にして、住民参加・町民参加の仕組みを考えていただきます。

内山会長 そのような方針でよろしいですか。では、そのように進めていきます。まとめ方として、我々が考える「タウンミーティング」は、地域で行われる集会であって、町が町民の意見を聞く場ということです。そのようなことから、他の項目で議論したことと同じであり、この項目から削除するというのでよろしいですか。では、合意とします。

中項目「計画」の議論に移ります。Aグループは大項目「住民協働」の中項目「住民参画」に含まれているという意見でした。町が行政の施策を計画する時には、住民参画を行い、住民の意向を反映してほしいということですね。これは、既に過去の項目で議論していることなので、「計画」も削除することでよろしいですか。では、除くことで合意とします。

中項目「安心安全」の議論に移ります。Aグループは前文で述べるべきものであるという意見でした。

日下委員 大項目「総論」の中項目「理念」に既に入っていると思います。

内山会長 そのように思います。本来ならば、「安全安心」と言いますが、「安心安全」と言い方にします。「安心安全」は既に、「理念」で述べているというまとめ方でよろしいですか。では、合意とします。

中項目「ボランティア」の議論に移ります。「ボランティア」は、過去の議論のNPOや自主活動組織で表現されているということで、ここからは、除くということによろしいですか。では、合意とします。

中項目「産業」の議論に移ります。ここで、野口委員から意見がありました。産業には、農業、工業、商業があります。過去の議論の中で、条文に残っているかは分かりませんが、白岡町の発展の根底が農業であり、それによって町が形成されてあるということを議論しました。また、今後の町の発展のためには、農業を残していくということが議論されたと思います。前文などで産業を「農業・工業・商業」として、そこで述べた方が良くと思いますが、いかがでしょうか。大項目「まちづくり」からは削除することによろしいですか。今後の検討の中で反映していくという進め方にします。ここからは削除することです。では、合意とします。

中項目「福祉」の議論に移ります。これについても、議論したと思いますが、Aグループは、どのように考えていますか。

平田委員 福祉については、今までの議論に出ていなかったと思います。しかし、条例に福祉を入れるのは、適当なのでしょうか。

高澤課長 福祉に関してどうしても言いたい事があれば良いと思いますが、どうしても入れたい項目でしょうか。前文や理念に入れた方が良くと思います。

広辺委員 最初に、白岡町らしさを考え、教育や次世代を突出させました。そして、それ以外の「産業」と「福祉」と「環境」は大項目「まちづくり」に入れました。そのようなことを考えれば、前文で書けば良くと思います。

内山会長 福祉については、既に様々な法律があり、施行されています。ここでは、理念的な書き方になると思います。あえて自治基本条例の中で規定する必要性はありますか。福祉は、既に法律等で運用されています。残されている課題もあると思いますが、それは、その分野で議論するという事で良いと思います。

牛山教授 この大項目「まちづくり」には、様々な項目があります。タウンミーティングや計画、安心安全、ボランティアなどは、自治基本条例に規定する内容だと思います。これらは、今までの項目に含まれているという結論になりました。そして、産業、福祉、環境などについては、白岡町で何を条例として規定するかを考えて議論すべきです。条例は、実際に守るもので、行政も従わなくてはなりません。例えば、「高齢者を大事にする」や「障害者が安全に暮らせる町にする」などの文を入れるのであれば、前文や理念に入れるという判断が考えられます。そうではなく、みなさんが具体的に書くべきだと考えていれば、条文にするという判断もありえます。「教育・次世代・子育て」が大項目となっているのは、みなさんが子どもを大事にしたいという思いが強いからということになります。そこで、内山会長は、農業を前文に入れるというまとめ方をしました。他にも具体的に盛り込みたいことがあれば発言していただき、作業部会に委ねます。そして、作業部会の案をみなさんと議論することになります。

内山会長 1つ1つの項目を議論してきましたが、総括していただきました。そのようなことから、次回の作業部会で今までの議論を踏襲しながら、まとめます。他に意見はありますか。

藤巻委員 私は、環境について、美観の維持管理を入れるべきだと思います。庁舎や総合運動公園の周りには雑草が生えています。町のシンボルがそのような状態です。町の公共施設に関して美観を損ねないように、美観の維持管理をしていくことを入れておくべきです。

内山会長 行政の環境を担当する課で、環境基本条例の策定が進められています。ホームページを見ると、環

境基本条例のことが載せられています。基本今の意見のことを表現していただくように、お願いするということ
でいかがでしょうか。

藤巻委員 分かりました。

内山会長 本日の議論を踏まえて、作業部会でまとめます。では、ワークショップを終わります。

* * * * *

内山会長 次回、大項目「教育・次世代・子育て」について議論をします。牛山教授から、事前に考えてくる上での
アドバイスをいただきます。

牛山教授 長時間、お疲れ様でした。この項目は、みなさんが子どもについて重要に考え、しっかりと育てていく
ことを書く項目になると思います。広く言えば、教育政策や保育政策になりますが、この会は「教育・次世代・
子育て」という大項目にしました。ここには、「生涯学習」という中項目もあります。もし、子どもに絞った項目に
するのであれば、「生涯学習」という中項目をどのようにするかを考えなければいけません。項目を2つに分け
るという判断もあります。そのようなところを整理して、考え方を示していただければ良いと思います。

内山会長 これで、本日の全体会議とワークショップを終わります。

事務局が事務連絡をした後、作業部会のメンバーの方が残り、次回の作業部会の日程調整を行いました。